

祐善寺だより

第34号

発行日

2015年7月10日

真宗大谷派 祐善寺 住職/岡崎 賢 福井県丹生郡越前町上糸生20-2 TEL 0778-34-5170 FAX 0778-34-5170

十五年ぶりに

本山への上山奉仕団実施！

本山東本願寺（真宗本願）への上山奉仕団が、去る六月五日（金）から七日（日）までの二泊三日の日程で実施されました。

祐善寺単独では、十五年ぶりの奉仕団での上山でした。参加者は八名と、いささか少なかったのですが、北海道からの奉仕団の方々と交流もあり、講義、座談、帰敬式受式、諸殿拝観、渉成園での環境美化作業等、充実した日程は、有意義に進められました。奉仕団日程終了後は、京都市内の親鸞聖人の御旧跡巡拝等を行って、帰途につきました。

普段、テレビ中心の生活をしている私たちにとって、テレビとは無縁の本山・同朋会館での二泊三日間の生活は、忘れることの出来ない貴重な体験となりました。参加した方々からの感想を紹介します。



奉仕作業の前に御影堂をバックに記念撮影

◇帰敬式（おかみそり）を受けて

渡辺 和恵

今回、真宗本願奉仕団に参加した理由は、「法名」を頂くことでした。私は、法名とは亡くなった時に葬式や法事に使用するものだと思っていましたが、それは間違っていました。お釈迦様の弟子、仏弟子になる儀式が帰敬式であり、それは、南無阿彌陀仏の教えに導かれて、わが人生を生きるということですから、生きている「今」、受式することが本来的な意味です。人間の闇を照らす阿彌陀仏の光明にただただ出遇って欲しい、という願いが込められています。これから真宗門徒として、新たな自覚を持ち、念仏申す人生を送りたいと思います。

◇感謝感謝の三日間

野村 範子

今回、真宗本願奉仕団に参加させて頂くことができました。初めての体験だったので、自分の体力が大丈夫だろうかなど不安を抱えての上山でした。しかし、無事終えることができた今の私の胸の内には、大変有意義な三日間を過ごさせて頂けた喜びと、関係の皆様に対する感謝の気持ちで満たされています。

初日の両堂参拝や諸殿拝観では、大きな阿彌陀堂や御影堂をはじめ、普段の参拝の際には許されない所も拝観することができました。先ず感じたことは、現在のように重機などの無かった時代に、遠



奉仕団結成式

く離れた各地から建築資材を集め、この大きな施設を立派に作り上げた先人達のご苦労が大変なものであったに違いなし、ということでした。信仰の力の大きさ・凄さを改めて実感しました。

二日目には、帰敬式を受式させて頂き、法名を頂戴することができました。友達に、「法名を買ったのだから、私何時死んでもいいわ」と話したら、「法名を買った人は、長生きできるんやよ。例えば〇〇さんは、九十四歳まで元気で仕事をしながら過ごされたのは法名を買ったお蔭らしいって私、聞いたことがあるの。」とのことでした。こんな嬉しい話を聞かせて頂けるのも、他ならぬ真宗本廟奉仕団に参加させて頂けたお蔭です。有り難うございました。

◆真宗本廟奉仕団に参加して

野村 須美恵

私は、これまで何回か奉仕団で本山へ

参らせていただきました。そのたびに、感動と驚きの連続ですが、もう一つ嬉しかったこと、それは、祐善寺の若様が立派になられたこと。これからも安心して心を預けられるね、と主人とも話しております。また、機会があったら参加させて下さい。本堂に有り難うございました。

◆真宗本廟奉仕団に参加して

野村 明良

人身受け難し今すでに受く、仏法聞き難し今すでに聞く……六月五日から七日まで、私共夫婦で奉仕団に参加させて頂きました。

先ず、両堂参拝、諸殿拜観、その立派さに圧倒し、驚きから始まりました。講義、座談を繰り返して、お内仏のお給仕、清掃奉仕と三日間は、世間と離れての生活でしたが、最後の日は別れが惜しかったです。今回、改めて思ったことは、仏様の前では素直になる自分を発見。また、人の痛みもほんの少しわかるようになった。我が家の仏壇の前では、邪道が入るのだが、本山では集中出来る、全く不思議である。二日目、渉成園での清掃作業は、北海道の奉仕団の方々との共同作業で、竹ぼうきを持って掃き掃除をしていた時、私の妻は今、腰を悪くしているその光景を見て、皆さんと比べて本当に可愛そうに思った。五十余年私を支えてくれた証である。愛らしくなり何かしてやりたい気持ちが入み上げてきた。この気持ちを直接には言えず、御影堂に帰って親鸞様に、私の気持ちを伝えてく

ださい、とお願いをしました。

とにかく思い出多い三日間でした。又、機会があれば何をおいても参加したいと思っております。

◆本山奉仕団に参加して

渡辺 千代一

二泊三日の奉仕団参加は、今回で二回目です。一回目は、推進員になるために八年前に上山し、決意表明で「毎日、仏様に手を合わせます。」と書きましたが、平成二十三、二十四年に大病で二回も手術し、「神も仏もあるもんか」と思いました。しかし、今回の呼びかけで、ふと我に返った時、「違っ、こんな大病になりながら完治しつつあるのは仏様のお陰である」と悟り、お礼参りがしたい、と思えました。そして、これからも毎日、手を合わせることを、御影堂と親鸞のお墓の前で再約束してきました。また、お内仏のお給仕では、沢山の間違いにも気が付きました。例えば、平常の仏供は、朝のお勤めが終わってからお供えし正午に下げるそうです。このように、今回は、楽しく学ぶことができ、参加して良かったです、と思えました。

◆親鸞聖人のお膝元での

三日間を振り返って

野村 軍一

本山奉仕団員として、親鸞聖人のお膝元で過ごさせて頂いた三日間は、人様の温かさと思いやりの心の有り難さ、大切さを強く感じさせて頂く日々でした。

私共の奉仕団に付いて夜九時頃までご指導やお世話を下さった三人の先生方は、常に柔らかい表情と温かいお心をもつて、私共の体調を気遣って下さった。奉仕作業の時間には私共と一緒に箒を手にしてお仕事をなさるなど、頭の下がる思いの連続でした。

広く読まれている歎異抄の中に、一思いに成敗してやろうと刀を振りかざす弁円を、数珠一連のみ持った親鸞聖人が「良く参られた」と、にこやかに迎えたという話が出ていますが、私にとつてはその時の弁円の気持ちに通じるものを感じた三日間だったので。私共に真心をもって接して下さる方々のお姿に、歎異抄の中の親鸞聖人のお姿を重ねて持ませて頂いた次第です。幸せな三日間を、本堂に有り難うございました。



諸殿拜観で係の方の説明に聞き入る



『でねの箱』

祐善寺のこと
いつもいつも
心に留めていて下さって
ホントにホントウに
有り難う御座います
どうかどうかこれからも
宜しく願います

お礼の印^{しるし}って言えるほどの
ものではないけれど
心をこめて貴方に
この箱を贈ります



これは『でねの箱』といふ名の
不思議な箱です
いつでも貴方の心に
話しかけます
優しく温かい声で
話しかけます

試^{あやま}つたこの箱の中へ
『諦^{あきら}めない』って入れてごらん
……ほづらね
『諦^{あきら}めないでね』って
優しく温かい声が
貴方の心に届いたでしょう

『頑張りすぎない』
『腹を立てない』
『ぐっけない』
『無理はしない』
……



貴方が今 心の中で

一番大切にしている言葉を

そのまんまそつと

入れてごらん

たつたそれだけでいいのです

たつたそれだけで

間違はなく優しく温かい声が

貴方の心に響いてきます

その声を聞いてあなたは

もつともつと強く

もつともつと心豊かに

暮らせるようになるのです

頑張つてね

一緒に頑張ろつね

みんなの心は

しっかりと繋がっています

だつてみんな仲間だもん

みんな同じ祐善寺の門徒だもん

(6)

平成27年度護持費の志納よろしく申し上げます

祐善寺を永代に互って護持
していただくために、護持費を
お願いしておりますが、今年も
次のおりご志納下さいますよ
うよろしく願います。

◇護持費の使途

- ・ 報恩講の厳修費や教化事業の実施
- ・ 本堂を守る火災保険や環境維持費用
- ・ 本山相続講、福井教区賦課金等
- ・ その他

◇年額

一戸平均 一〇、〇〇〇円

◇志納方法

- ・ 寺へ直接志納する
- ・ 秋まわりや法事で住職が貴家を訪問の際に志納する
- ・ 地区の役員さんに志納する
- ・ 郵便振替口座
(〇〇七七〇一九一三〇七二一)
- ・ 加入者＝祐善寺
へ振り込む

◇志納期限

毎年十一月末日

福井教区・親鸞聖人七百五十回御遠忌法要

稚児行列に参加して

四月十日から十二日まで、福井別院を主会場に真宗大谷派福井教区・

福井別院親鸞聖人七百五十回御遠忌法要が厳修されました。結願日中の十二日には、御遠忌に華を添える稚児行列が催され、上野秀文様ファミリー(越前町新庄)が、ご参加されました。皆さんに、感想をいただきました。

うえの さわ(五歳)

きものをきれて、うれしかったです。おけしようできて、うれしかったです。たのしかったです。

上野 秀文

今回、五歳の長女と三歳の長男、妻と私の四人でお稚児さんに参加しました。お稚児さんは、初めてということでわからないことが多く、不安が大きいまま会場に着くと、係の方が優しく案内や誘導をして下さったので、化粧、着付けとスムーズに進み、不安が一気に消え、楽しむこ

とができました。

子どもたちは、化粧や頭の飾りを嫌がったり、歩けば足が痛いと言ったり姿もありましたが、天候に恵まれたこともあり、最後まで歩き終えた二人の子どもの姿に、成長を感じるこ

上野 章代

娘五歳、息子三歳で初めてお稚児さんに参加させていただきました。五百組という想像以上の人数でしたが、誘導の方のスムーズな案内のおかげ場所も順番も迷うことなく、また、お化粧や着替えも予定通りできました。着付けの際、先生に息子を着せて頂き、私は、娘を見よう見真似で着せてみました。先生は、ゆっくりわかるように教えて下さり、少し手伝ってもらいながらではあります。ほぼ一人で着せることができました。私も良い経験がで



可愛いお稚児さんにポーズ!!

きました。

子どもたちは、お化粧をしてもらい、稚児衣裳をまとい、いつもと違う雰囲気嬉しそうでした。行列で歩いている時も、誘導の方から「良く頑張ったね」と声をかけていただき、子どもたちの疲れた顔がいつべんに笑顔になり、歩き終えたことに満足そうでした。

親として、子どもの健康・無事を願うのはもちろんですが、目に見える形でその思いを伝えるのは難しいものだと思います。今回のように、お稚児さんに参加させて頂き、親の思いを子どもたちに伝えることができ、とても嬉しく思いました。この貴重な機会に、親子揃って参加でき皆様に見守られながら無事に終えられたことに感謝しております。

おくやみ

上野保雄様(越前町新庄)には、平成二十六年十月十四日、行年九十歳にて往生の素懐を遂げられました。

ご生前のご功勞に、心より深謝申し上げます。



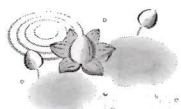
濱野初三郎様(福井市菜崎町)には、平成二十六年十一月六日、行年八十八歳にて往生の素懐を遂げられました。

ご生前のご功勞に、心より深謝申し上げます。



松島正治様(越前町杖立)には、平成二十七年五月十二日、行年八十六歳にて往生の素懐を遂げられました。

ご生前のご功勞に、心より深謝申し上げます。



第三回 親鸞聖人御絵伝 ~吉水入室~



親鸞聖人は、九歳から二十九歳までの、人生において最も多感な時代を、比叡山で堂僧として、厳しい修行と学問に励みました。しかし、どれだけの修行と学問に励んでも、悟りを開く道を見出すことはできませんでした。

比叡山での二十一年間に及ぶ苦行に限界を感じ、親鸞聖人は、二十九歳の春、比叡山を下りて吉水の禅房に、法然上人（源空上人）をお尋ねになりました。そのときの図です。

吉水の山門から白洲を通って椽に近付きなされる白い法衣姿も、室内の黒衣姿の法然上人の前に座られる白い法衣姿も親鸞。時に法然上人は六十九歳。

池の内外に描かれている仲睦ましい鴛鴦は、このあとの法然上人と親鸞の師弟の間柄を、それとなく示唆していると言われています。

右側門外に停まっているのが、親鸞が乗られた輿。

この頃、親鸞は、師の法然上人から、七高僧の道綽禪師の「綽」とご自分の源空の「空」の字を選んで、綽空と房号を授けられました。

「親鸞聖人御絵伝」

浄土真宗の宗祖、親鸞聖人のご生涯を広く讃えんがために、親鸞の曾孫に当たる本願寺第三世覚如上人が親鸞聖人の求道の歩みを詞に著し、初稿本の絵は、親鸞聖人の直弟西仏房の孫、淨賀法眼に描かせています。

詞の部分を「御伝鈔」と呼び、各寺院の報恩講において御絵伝四幅を余間に奉掛し、厳肅に御伝鈔が拝読されます。

〈参考文献「親鸞聖人伝繪」〉

これまで、葬儀を縁にして、さまざまなお話ししてきました。その中でも一貫して述べてきたことは、残された者が生きる喜びや生まれた意義に気づいていくことの大切さです。

浄土真宗では、人が亡くなりますと、「浄土にお還（かえ）りになられた」と表現します。亡き人を、浄土に還られた仏（諸仏）として受けとめる教えだからです。このことは単に、人が亡くなれば浄土に還り仏になるという理屈

中陰の数え方	
（しよなのか） 初七日	死亡した日から数えて 七日目
（ふたなのか） 二七日	死亡した日から数えて 十四日目（二週目）
（みなのか） 三七日	死亡した日から数えて 二十一日目（三週目）
（よなのか） 四七日	死亡した日から数えて 二十八日目（四週目）
（しよがっき） 初月忌	初めて迎える命日
（いつなのか） 五七日	死亡した日から数えて 三十五日目（五週目）
（むなのか） 六七日	死亡した日から数えて 四十二日目（六週目）
（ななのか） 七七日	死亡した日から数えて 四十九日目（七週目） 満中陰といふ。

其の30

仏事
一口メモ

中陰の過ごし方

ではありません。

亡くなった方が浄土に還り仏になられたということは、私がどう生きるのかということ抜きにしてはならないわけですね。つまり、残された者自身の生き方が亡き人（死）から問われ、一切の人々を救うと誓われた仏さまの大いなるはたらきに出会う縁となるかどうかです。

私たちが、これまでの自分の生き方や生涯を振り返るのは、正にこの時でありましょう。そこに、生かされている身に生きる喜びへの感謝の心が生まれるのです。この一点に立つて初めて、浄土に還られた仏さまとして、亡き人に手が合わされてくるのです。

慌ただしく過ぎ去る葬儀後のこの中陰の期間にこそ、じっくりわが身を振り返りたいものです。そして、肉親の死を意味あるものと受けとめるためにも、仏さまの教えを聴聞する生活が願われます。

この期間は、お内仏（仏壇）の近くに壇（これを「中陰壇」といいます）を設け、法名・ご遺骨・遺影を安置します。

中陰の期間は、ともすれば中陰壇が中心になりますが、礼拝（らいはい）の対象はあくまでもご本尊（阿彌陀如来）です。お内仏のない場合は、住職に相談し、早い時期にお迎えすることをお勧めします。

中陰の七日ごとの数え方は、表の通りです。家族そろってお参りしたいものです。

なお、四十九日（満中陰）を迎えますと、仏さまとともに生活を始める出発点という意味を含め、ご遺族・ご親戚などの近親者が集まって法要を営みます。みなそろって住職の法話に静かに耳を傾けましょう。（サンガより）

お知らせ

永代経会

八月七日(金)

十一時半

御齋

一時半 永代経会法要

二時

布教 福井市荒谷町

正円寺住職

佐々木正博師

三時二十分

物故者総墓収骨

永代経会とは、亡き人から
願いをかけられて生かさせて
いただいている私達が、亡き
人に感謝申し上げる法会であ
ります。

このかけがえのない法会に、
ご家族、ご親族、ご法友お誘
いあわせの上、何卒ご参詣下
さいますよう、ご案内申し上
げます。

合掌



ボランティア募集!!

寺周辺の 草刈り作業奉仕

と き 七月十九日(日)

八時集合

持 物 草刈機もしくは

鎌、軍手 等

昼 食 用意します

傷害保険 加入します

小 雨 決行します

炎天下で恐縮ですが、ご協力
頂ける方は、十七日までに祐善
寺までお電話下さい。

草刈り作業のみならず、刈り草
運びや草むしり等の作業もあり
ますので、ごなたでもご協力い
ただけます。

皆様、どうか
よろしくお願
いします。



平成二十七年度の 年忌法要を お勤め下さい!

本年度の年忌は左記のとおり
でございますので、貴家の過去
帳等を御確認していただき、皆
様にとられてかけがえのない御
先祖様の年忌法要を是非、勤め
て下さいますよう、お願いいた
します。

- 五十回忌 昭和四十一年没
- 三十三回忌 昭和五十八年没
- 二十五回忌 平成三年没
- 十七回忌 平成十一年没
- 十三回忌 平成十五年没
- 七回忌 平成二十一年没
- 三回忌 平成二十五年没
- 一周忌 平成二十六年没

納涼祭の中止について

本年度の祐善寺教化事業等計
画で計画しておりました「祐善
寺納涼祭2015」は、諸般の
事情により中止とさせて頂いた
きます。

来年度は、是非、開催させて
いただきたく、ご協力の程、よ
ろしくお願いたします。

編集後記

★三十度を超す夏日、十度ちよつとの
肌寒い日など、気温差の大きさに悲
鳴を上げています。沖繩は、十五日
も早く梅雨が明けました。火山の噴
火、竜巻などの自然現象は、私たち
に日頃の生活を見直すようにと、警
告しているのかも知れません。

★年金機構の個人情報、サイバー攻
撃で流出しました。次々起こる詐欺
事件は、私たちのすぐ傍まできてい
ます。細心の注意をしたいものです。
★福井国体は、十八年九月に開催され
ます。健康なころと身体でこの日
を迎えたいものです。

★永代経会にお参りしましょう。

(桑原)